

# 令和4年度 くじ子育て世帯物価高騰対策支援金

子育て世代包括支援センター ☎52-2169

原油価格や物価高騰の経済対策として、18歳までの子どもがいる世帯に支援金を支給します。  
申請が必要な人は、振り込み先の通帳かキャッシュカードをお持ちください。

- ▶支給額…子ども1人当たり2万円
- ▶支給対象者…令和4年9月分の児童手当を久慈市から受給している世帯、  
令和4年9月30日時点で久慈市に住所があり、支給対象児童を養育している世帯
- ▶支給対象児童…平成16年4月2日から令和4年9月30日に生まれた人



詳細はHPを  
確認ください

## ■中学生以下の養育者

9月分の児童手当  
(特例給付を含む)を  
市から受給している

申請不要

10月分の児童手当  
(特例給付を含む)を  
市から受給している

申請不要

6月から所得上限超  
過で児童手当を受け  
ていない

申請必要

9月分の児童手当  
(特例給付を含む)を  
県内他市町村から受  
給している

支給対象外

申請に添付が必要な証明書  
子の世帯の住民票の写し(9月30日時点で子  
の住所が市外の場合のみ)

## ■高校生の養育者

市から受給する9月  
または10月分の児童  
手当の支給対象と  
なっている「きょう  
だい」がいる

申請不要

11月15日時点で、令  
和4年度くじ子育て  
世帯臨時特別支援金  
の申請をしていて、  
養育状況が変わって  
いない

申請不要

11月15日時点で、令  
和4年度くじ子育て  
世帯臨時特別支援金  
の申請をしていて、  
出生、離婚などで養  
育状況が変わった

申請必要

11月15日時点で、令  
和4年度くじ子育て  
世帯臨時特別支援金  
の申請をしていない

申請必要

申請に添付が必要な証明書  
①令和4年度市区町村民税所得課税証明書または  
非課税証明書(令和4年1月1日の住所が  
久慈市外の父母のみ)  
②子の世帯の住民票の写し(9月30日時点で子  
の住所が市外の場合のみ)

## ■公務員

11月15日時点で、令  
和4年度くじ子育て  
世帯臨時特別支援金  
の申請をしていて、  
養育状況が変わって  
いない人

申請不要

11月15日時点で、令  
和4年度くじ子育て  
世帯臨時特別支援金  
の申請をしていて、  
出生、離婚などで養  
育状況が変わった

申請必要

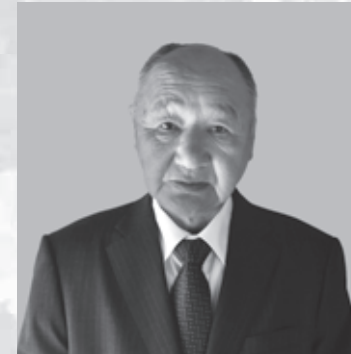
11月15日時点で、令  
和4年度くじ子育て  
世帯臨時特別支援金  
の申請をしていない世帯  
(対象外だった  
世帯も含む)

申請必要

令和4年度9月分の児童手当を受給していることがわかる書類または  
①令和4年度市区町村民税所得課税証明書または非課税証明書(令和4  
年1月1日の住所が久慈市外の父母のみ)  
②子の世帯の住民票の写し(9月30日時点で子の住所が市外の場合のみ)

令和4年度、秋の叙勲・褒章が発表されま  
した。市内の受章者の皆さんを紹介します。

# 秋の叙勲・褒章



消防功労

瑞宝単光章

なつ い ちろう  
夏井 一郎さん

(夏井町・72歳)



消防功労

瑞宝単光章

くず まき やすお  
葛巻 泰雄さん

(中町・73歳)



消防功労

瑞宝双光章

はん な かつ お  
繁名 勝男さん

(畑田・71歳)

昭和49年に消防団に任命され  
47年間の永きにわたり、住民の  
安全な暮らしを守るため、消防  
活動に献身的取り組みました。  
平成25年から3年間、副分団長  
を努め、火災予防活動に貢献し  
ました。

受賞にあたり「消防団は亡くな  
った父の後を継ぐかたちで入  
団しました。団員生活で印象に  
残っていることは、平成28年の  
台風災害。鳥谷川が決壊し、山  
側も土砂崩れの危険性がある中  
で、夜通し町内の警戒を行いま  
した。台風が去ってからも、道  
路の状況がわからない中、市内  
の水があふれている所にポンプ  
をかけに行きました。町内で山  
火が発生し、20<sup>キロ</sup>のタンクを  
背負って、急斜面を消火したこ  
とも思い出されます。今回の受  
章は分団、町内の皆さんのお力  
がかりだと思っています」と感謝  
の気持ちを述べました。

昭和48年に消防団員に任命さ  
れ、46年間の永きにわたり、消  
防の使命を深く認識し、防火活  
動に取り組みました。平成20年  
からは分団長に昇格し、後進の  
指導育成に尽力しました。

受章にあたり「一人でいただ  
いた章ではなく、団員の皆さん  
といただいた章だと思っています。  
団員生活の中で記憶に残っ  
ているのは久慈大火。水が足り  
ず、海からくみ上げて消火活動  
を行いました。風が強く、炎が  
迫って来る中で、火災の恐ろし  
さを身をもって実感しました。  
昔に比べて、石炭や薪を使う機  
会が減っているので、火災は少  
なくなっていますが、自然災害  
は増加しています。災害はいつ  
起きるか分からないので、後輩  
の皆さんには油断禁物で緊張感  
を持って訓練に励み、地域のた  
めに努めていただきたいと思います」と思いを語りました。

昭和47年に久慈地区広域行政  
組合消防士を拝命以来、38年間  
の永きに渡り消防行政の発展に  
努めました。平成19年から平成  
23年まで久慈消防署長を努め、  
豊富な経験を活かし、防災体制  
の強化に努めました。

受章にあたり「消防士として  
記憶に残っているのは、国家石  
油備蓄基地の許可事務に携  
わったことです。昭和61年の建  
設開始から完成までの約8年  
間、週3回朝から夕方まで地下  
で雨具を着て検査業務を行いま  
した。当時、地下に備蓄基地を  
建設するのは全国で初めて。前  
例のないことなので、勉強しな  
がら手探りの状態でしたが同僚  
に助けられて何とか完遂しまし  
た。消防は防災の要だと思っ  
ています。後輩の皆さんにはやる  
べきことはすべてやるという気  
持ちで職務に励んでいただきた  
いです」とエールを送りました。